

TOPIC 1 | 住宅業界初、100%再生可能部材の家づくりプロジェクト

再生可能な部材のみで作る完全循環型の住宅が実現しそうだ。積水ハウスが「循環する家(House to House)」プロジェクトとして発表し、再生可能な部材のみで作る完全循環型の住宅について2050年の販売を目指している。

目標とする完全循環型の住宅とは、リサイクル部材、リユース素材、自然素材などを用い、さらに資源として再度使用するために分解しやすい設計にするなど作り方から構築する新しい家の形である。ただ、住宅は3万点以上の部材が使われ、しかも多数のサプライヤーが関わっていること、複合材が多く使われていることなどから、実現のハードルは高い。同社では、新築施工およびアフターメンテナンスと改修時に排出される廃棄物を全国21ヶ所にある自社施設「資源循環センター」に回収し、資源を細かく分別しすべてリサイクルしているが、今後、その拠点を生かし、サプライヤーと協力して再生可能な部材の共同開

発を進める。

このプロジェクト実現に向け、23年12月にサプライヤー220社を対象に説明会を実施。現在、リサイクルが進む部材メーカーも出てきている。ブリヂストンとは住宅の給油、給水用の配管である給水給湯樹脂配管の水平リサイクルを開始した。積水ハウスが回収したブリヂストン製ポリブテンパイプを再生材メーカーでリサイクルペレット化してブリヂストンに還元し、給水給湯樹脂配管の製造に使用。これにより積水ハウスの新築施工時に排出されるブリヂストン製給水給湯樹脂配管端材の70%超がクローズドループリサイクルされるようになった。



「循環する家(House to House)」プロジェクト発表会に参加した積水ハウス、サプライヤーなどの関係者

TOPIC 2 | 建材業界でEPD取得の動きが加速

脱炭素を背景に、建材業界でEPD(製品環境宣言)取得の動きが加速している。

EPDとは、建材の製造に必要な原料の採取から使用、さらには廃棄に至るまでのすべての工程における環境負荷を定量的に評価する「LCA」を用いて定量的に製品の環境情報を表示する環境ラベル。建物の運用時以外の資材製造・施工・修繕・解体の段階に排出されるCO₂のことであるエンボディドカーボン評価の土台とも言えるもので、これを見れば、製品単位のLCCO₂(ライフサイクル全体でのCO₂排出量)をはじめとする様々な環境負荷情報を知ることができる。

建材がつくられて、運ばれて、施工されるまでのところをアップフロントカーボンと呼び、それを建築規制するといった動きが海外で出てきている。将来的には日本に

も建築規制に入ってくる可能性がある。

こうした中で、ケイミューは24年9月、窯業サイディングおよびスレート屋根材において、国内初となるEPDを取得。EPD hubにて、合計10製品の認証を受けた。大建工業は24年10月、(一社)サステナブル経営推進機構(SuMPO)のSuMPO環境ラベルプログラムを活用し、床材の主力製品を含む8製品について、同社初となる第三者検証を実施し、EPDを取得した。

さらに、日本繊維板工業会は、木質ボードのLCA分析に着手した。IBECsに設置されたゼロカーボンビル推進会議で検討が進められている「建材・設備のカーボン表示」への対応に向けたもの。25年に工業会加盟企業の国内の全製造工場のLCA分析を実施しEPD取得を目指している。

新刊

必携 住宅の品質確保の促進等に関する法律

省エネ関連、長期優良住宅の改正を全面的に反映した最新版

改訂版 2024



華創樹社